

## 創ゼミ 2022 年受験生合格体験記 (原文まま)

○米沢真衣 (瑞陵高校) 入塾:高 1

進学先 早稲田大学 合格校 名古屋市立大学、関西学院大学、南山大学ほか

成績の悪さに焦りを感じ、高 1 の終わりの春休みに入塾しました。それまで、自宅で勉強することもなく、学校で出された課題でさえまともにやってこなかった私は、勉強の習慣がなく、机に向かうことさえ苦痛でした。しかし、創先生の『言ったことをきちんとやれば絶対に伸びる』という言葉に頼りに、暗記系の小テストだけは完璧にしていこうと自分の中で決め、集中しているとは言えない状態ながらも、少しだけ勉強をするようになりました。

本当に受験へと意識改革ができたのは 2 年生の終わりの 2 月です。周りの塾生が自分の想像以上に勉強していることを知り、小テストの勉強をダラダラとこなしているだけでは足りないのだとようやく気づきました。本格的に受験勉強を始めるにあたって、最も助けとなったのは、小テストで覚えた知識です。

受験が近づくにつれて、こなさなければならないものの量が増えてゆくため、2 年生のうちに暗記分野をある程度形にしておくことが本当に大切だと感じました。3 年生の春、先生の指示で 10 時間勉強が始まりました。それまで 4~5 時間の勉強でも長いと思っていた私にとって、10 時間というのは信じられないほどの長さでした。しかし、いざ勉強してみると、長いという感覚に対して思っていたより進まず、夏まで手ごたえのないまま探り探りに取り組んでいました。夏休みに入ると、共通テストの対策も始まり、時間を意識して勉強するようになりました。問題を解くのが遅かったので、時間内に解ききることができずに苦戦しましたが、回数を重ねて慣れることでスピードを上げてゆきました。

共通テストの点数は 5 割が実力で残り 5 割が処理能力と慣れだと思っています。学校では、共通テストの対策よりも国公立の記述対策を先にすることを勧められていましたが、塾の方針で早めに共通テスト対策ができ、過去問を十分に解くことができたことで、2 次記述と共テマークで中途半端にならずに着実に点数を上げることができたと思います。2 次と共テはどちらから始めるのが合っているかは人それぞれだと思いますが、共テから始めると勉強の成果が直接現れるのでモチベーションが維持しやすく、また、分野ごとに問題が出されているので、苦手な場所の対策をまんべんなくできます。二次試験はこれの応用なので、初めに共テで基礎を詰めておくほうが個人的にはおすすめです。

10 時間勉強は続けていたにもかかわらず、何をやっていたのか分からないほど夏休みは一瞬でした。秋になる頃には、塾での共テ練習ではある程度点数が出るようになっていました。しかし、模試では、周りが判定を出し始めるなか、普段通りの点数が出せずにかなり不安を感じていました。12 月に行われる最後の模試でようやく判定が出たときは、「やっとか」という安堵の気持ちでいっぱいでした。そのまま本番でも実力が発揮できたのは、先生の『緊張は必要』という言葉でメンタルコントロールができたからかなと思っています。

共通テスト後は切り替えが大変でした。私の場合、慶応大学の試験が迫っていたので、その対策がすぐに始まりました。教科数が減り、楽になると思っていたのですが、一つ一つの内容が重く、共テの対策よりもきつかったです。1教科に時間がかかるので、毎日あつという間で、10時間勉強では足りず、15時間くらい勉強するようになりました。慶応大学には落ちてしまいましたが、このとき小論文の練習をたくさんしたことが結果的に早稲田大学の合格につながりました。

私が大学受験という経験から得たのは、教養以上に、続ける力と忍耐力です。大学生活ではこの力を活かし、さまざまなことに挑戦したいです。

最後に、私は2年生の終わりに文転しました。文転をするうえで心配すべきなのは文系の教科が独学できるかではなく、受験勉強と学校の理系教科テストの両立ができるかです。私は最後の最後まで物理に悩まされていたので、もし、文転を考えている方がいればこの点を特に考えてみてほしいです。